



今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

たわわに実ることを願って彦根りんごの接ぎ木を行う参加者



「彦根りんごを復活する会」会長の尾本さん ▶

「幻の彦根りんごを復活する

「失われた文化の再発見」

尾本正和さん (西今町)

「彦根りんご」という名前をご存じでしょうか。江戸時代に彦根に伝えられたこのりんごは、ワリンゴの一種とされ、味は酸味が強く、大きさは直径3〜5cm程度のものであったとされています。江戸時代末期から市内でも盛んに栽培され、夏に実をつけることから、このりんごはお盆時期のお供え用として需要があったようです。しかし、明治以降に持ち込まれ、現在一般的なものとなっている西洋りんごに押され、市内のりんご畑は徐々に姿を消し、昭和30年代に最後の木が枯れてしまいました。私たちは現在、この彦根りんごを復活させる取り組みを進めています。約1年間にわたり、りんごが栽培されていた当時を知る人の話や、文献などを調

べ、彦根りんごのルーツについて調査を行いました。そして、多くの人の努力のかいあって、今年の4月10日に、約50本のりんごの接ぎ木を行いました。木の資料が残っていないため、私たちのりんごが、かつての彦根りんごと同種であるかは確認できません。しかし、それでも、彦根りんごの復活により、若い人たちが、失われていた先人の文化に気づき、新しい彦根の文化として後世に伝えていくきっかけになればいいと思っています。ワリンゴが彦根に伝わってから200年目となる2016年には、復活を祝うイベントを行う予定です。そのころにはこれらのりんごの木にもたわわに実がなっていることでしょう。

「おいしいよ 桜を見ながらお花見給食」

山代菜右さん (下矢倉町)

験したという人もいるそうです。

鳥居本小学校の校庭には、たくさんのお花見の木があります。この桜は大正15年の卒業記念植樹を始まりに、卒業生の皆さんが少しずつ植えていったもので、多いときには約80本もあったそうですが、枯れたりしたものもあり、古い木は半分の約40本になってしまいました。

今年も4月13日に全校のみんなが参加してお花見給食が行われました。今年はお花見の桜が早く咲き、当日は桜もほとんど散ってしまった後でしたが、晴れた空と桜の花びらのじゅわんたんの音が、友達や先生といっしょにわいわいと話しながら給食を食べることは、とてもいい気分でした。

私たちの学校では、毎年桜の咲くこの季節に、お花見給食という行事があります。桜の木の歴史と比べると短いですが、それでもお花見給食も始まったのは昭和45年だそうで、鳥居本小学校の伝統行事のひとつだと思います。お兄さん、お姉さんで、この行事を経験した人もたくさんいますが、なかには、お父さんやお母さんもお花見給食を経

来年は満開の桜の下でできたらいいなと思いますが、6年生の私にとっては、今年が最後のお花見給食です。長い間続いてきたお花見給食が、大人になってからも楽しかった思い出として残るように、これからもずっと鳥居本小学校の伝統行事として続いてほしいです。

山代さん ▶



▼ 話が弾む、楽しいお花見給食の風景

